

3) 専門医生涯教育委員会

委員長：野口 昌彦

委員：秋元 正宇、大守 誠、奥本 隆行、片平 次郎、小室 明人
竹内 正樹、土佐 泰祥、羽多野隆治、浜島 昭人、福田 憲翁
三川 信之、森本 尚樹

開催年月日：2025年2月1日（更新審査委員会：WEB会議）、メール委員会

活動内容：

1. 日本専門医機構の整備指針変更にもなう指導内容の通知および内容の検討
(シニアキャリア制度の導入関連、共通講習B関連)
2. 「別名称専門医（仮称：相談医）」の認定に関して
3. 会員カードの機能変更にもなうマイQRコードによる受講管理への移行
4. 2024年度専門医資格更新審査
5. 専門医講習審査（領域講習・共通講習）
6. 専門医更新の活動休止／猶予申請者への対応
7. 委員会承認の関連学会・研修会等の更新および新規申請審査
8. その他

活動の概要：

1. 日本専門医機構の整備指針変更にもなう指導内容の通知および内容の検討
 - a. シニアキャリア制度にもなう専門医更新申請時の診療実績点数取得法の検討
 - ・(連続して)3回以上の更新を経た専門医の更新においても診療実績の証明の免除は行わない(2026年度規約の改定(専門医生涯教育細則(第7条3項)が改定))
 - ・診療実績点数取得法
 - A. 5年間に術者あるいは指導者として執刀した症例
 - B. 5年間に診療した症例について、症例一覧表(様式5)に、診療日時、病名、治療法、転帰、診療施設名を入力
 - C. 筆記試験等の実施(e-testing)
 - A, B, Cの全てで証明を行えるよう検討する
 - b. 更新資格における必須受講項目の追加(2026年度更新者から)
 - ・共通講習B(5項目：医療制度と法律、地域医療、医療福祉制度、医療経済(保険医療に関するものを含む)、両立支援)受講が必須となる。

共通講習Bの免除

2022年4月1日以前に専門医を取得されている医師

専攻医時に “多様な地域*”にあたる地域で1年以上研修をされた医師

専門医取得後に “多様な地域*”にあたる地域で1年以上勤務された医師

*形成外科学会では“多様な地域”の定義として2018年足下充足率0.8以下の地域とした

北海道、青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、新潟県、富山県、福井県、山梨県、岐阜県、愛知県、三重県、滋賀県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、広島県、山口県、愛媛県、佐賀県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県
→現行のマイページ入力フォームにおいて共通講習 B の受講が必要か不必要かに応じ振り分けるシステムへの作り直しが必要。

2. 「別名称専門医（仮称：相談医）」の認定に関して

新制度での専門医更新は希望しない 65 歳以上で、すでに 3 回以上専門医の更新を経た先生に対し、形成外科学会として別名称を付与しても良いという機構の考えが示された。今年度更新の対象となる上記条件に沿った 408 名にアンケートを施行。162 名（回答率 39.7%）より回答があり、その結果半数が別名称を希望された。この結果を踏まえ専門医制度委員会で審議のうえ、「相談医」という名称を希望者に付与することでまとまった。但し学会認定のため「専門医」の標榜は出来ず、また指導医資格も有さない。

3. 会員カードの機能変更にともなうマイ QR コードによる受講管理への移行

第 42 回日本頭蓋顎顔面外科学会、第 137 回関西形成外科学会、第 30 回日本形成外科手術手技学会で施行

4. 2024 年度専門医資格更新審査

新制度に基づき更新審査の手引きの改訂を行い、会告として告知（6 月）。

専門医更新審査会を 2024/2/1 に開催。

本年度の専門医資格更新審査対象者は 867 名で、申請者は 660 名であった。そのうち更新を承認された者は 618 名、書類不備により追加書類などの再提出後の再承認審査対象者が 42 名であった。

5. 専門医講習審査（領域講習・共通講習）および「領域講習申請時の経費」の見直し

- ・領域講習、共通講習 149 件の審査を行った。

6. 猶予申請 20 名で、活動休止申請 3 名が承認された。

7. 委員会承認の関連学会・研修会等の更新および新規申請審査

新規申請 2 件と辞退希望 2 件の審査が行われ承認された。

8. その他

- ・総会・基礎学術集会参加の会員マイページへの自動登録

- ・日形会ビデオライブラリーへの動画投稿を業績点として認めることが承認された。